



人を大切にしている企業の事例と効果

平成30年6月29日に「働き方改革法」が成立し、31年4月から施行される。主な内容は、①残業時間の上限規制、②同一労働同一賃金、③脱時間給制度などである。さらに政府は、「女性活躍推進法」を改正し、来年の運用開始を目指して女性が働きやすい環境を築くことを進めている。

元法政大学大学院教授で、「人を大切にする経営学会」会長の坂本光司氏は、「社員とその家族」、「社外社員とその家族」、「現在顧客と未来顧客」、「地域住民とりわけ障害者等社会的弱者」、「株主・関係機関」などを企業経営で最も重要な人と位置付けており、「関係する人々が所属する幸せを実現し、働きがいが高い企業で、業績が低い企業は歴史上存在しない。一方、業績を過度に追求し、企業経営の最大の目的・使命をないがしろにしている企業で、長期にわたり繁栄した企業は歴史上存在しない」と述べている。

人を大切にする経営を実践し、25年連続黒字を実現している会社「株式会社日本レーザー」がある。かつて赤字で苦しんでいた同社では、近藤宣之社長自らが会社再建のために、「社員のモチベーションを高める工夫」「粗利重視の経営」「人事制度・評価制度の見直し」「能力と努力と成果に応じた処遇体系の構築」に取り組んだ。その結果、1年で黒字に転換し、2年目には累計赤字を一掃した。「人を大切にする経営」の実践こそ、会社を再建・成長させる唯一の方法であると実証したのである。

現在の女性社員比率は、パート社員を含めて30%、管理職女性の割合も30%、60歳以上の高齢者も全体の20%を超え、ダイバーシティ経営を体現している。また、女性が出産後も会社を辞めずに活躍できている。

そのためのポイントは、①公平な「評価基準」、②社員の事情に合わせた「個別管理」、③「ダブルアサインメント：二人担当制。取引先1社に対して担当者を二人配置する」と「マルチタスク：1人が複数業務や取引先を担当する」の導入、④目指したい「ロールモデル（お手本）」の存在、などである。

坂本会長は「企業経営の最大の目的・使命は、関係する人々の幸せの追求・実現である。企業業績は重要であるが、企業経営の目的ではなく、目的を実現するための手段、もしくは結果に過ぎない」と述べている。人を大切にしている日本レーザーの事例を参考にして人々の幸せを実現させていただきたい。

(執筆者：EMC (協) 中小企業診断士 高尾真理)

※ JRS 経営情報の中から、次のコンテンツを参考にしてください。

- 人を大切にしている企業の事例と効果・・・・・・・・・・・・・・・・(2018-0529)
 - 一番大切な人たち／新任部長が最初に訪問した先・・・・・・・・(2015-0584)
 - 人材育成の強みと活かし方～次世代リーダー育成の観点から～・・・(2013-0629)
 - 働き方改革と女性活躍の推進・・・・・・・・・・・・・・・・(2017-0795)
- () 内は情報番号です

なお、お客様にコンテンツを提供される場合には、最初のページに「サンプル」と表示してください。またお探しの情報が不明な場合はご連絡ください。(☎0120-89-0240)